

地域連携活動の公開について ～いしかわ業界マップ2020の事例から～

団体名 ● 奥村ゼミナール / 代表者名 ● 奥村実樹 (経済学部経営学科准教授)

はじめに

石川県に本社をおく総計220社と石川県商工労働部との地域連携事業かつ経営学科ゼミナール活動である「いしかわ業界マップ」は2015年度から開始し、掲載企業数の増加とその内容の修正をゼミナールでおこないながら進めてきた活動である。大学など高等教育機関における地域連携活動の多くが地域で実施される行事への参加であったり、発表会・報告会への出場であったりとイベント型が中心である。もちろん、そのような活動は地域と直接的に関わる機会を有するためにより地域と関わったと感じられる点が、特に学生の達成感という面でプラスの結果を残すというプラス面はある。

しかし一方で、活動による成果を残すことで何かに役立てるという視点も、特に高等教育機関への役割として必要となるはずである。ただし、その成果の残し方も、学内のみにとらえず形式的にというのであれば、せっかくの活動成果が活かしきれないということになる。

成果の蓄積と公開。これが、地域連携活動のもう一つの必要とされる要素となるのではないだろうか。

活動内容

奥村ゼミナール2019年度の活動により完成した「いしかわ業界マップ2020」であるが、本活動はその成果物を公開することにも重きが置かれている活動である。本稿では、今年度のその公開に関する活動について言及していく。

まず、今年度6月19日に大学公式ウェブサイトの新着情報にて【経営学科】「いしかわ業界マップ2020」を公開いたします！(奥村ゼミ) というタイトル記事で成果物の完成と2019年度の活動に関わった学生の感想(当時3年生2人、2年生1人)と活動写真、そして「いしかわ業界マップ2020」をPDFにて、「通常版」と「軽量版」の2種類を、同ページ上からリンクをつけて公開した【図表1】。

【図表1】大学ウェブサイトでの公開



本来、本事業は、大学コンソーシアム石川から「2019年度公益社団法人大学コンソーシアム石川地域課題研究ゼミナール支援事業」に採択されており、石川県商工労働部が産業展示館4号館で主催する新卒向けの大規模な企業合同説明会の来場者に冊子化したものを配布する計画であった。しかし、新型コロナウイルスの影響により、企業合同説明会が中止となってしまい、新卒者など業界マップの内容を特に勧めたい対象者に情報が伝わらないことで困っていた。そこに、以前から「業界マップ」を取材いただいていた北國新聞【図表2】と北陸中日新聞【図表3】から取材の依頼を受けたため、この業界マップがパソコ

ンなどから誰でもアクセスできるように公開していることを掲載いただいた。

【図表2】北國新聞 2020年6月25日付



【図表3】北陸中日新聞 2020年6月27日付



以前の業界マップ公開時も、県外からインターネット検索にて同資料を見つけたと、偶然、関東での研究会で一緒になった横須賀市役所調査部の方から受けた話で、想像以上に本資料が学外の様々な人の目に触れていることが実感できた。残念なことに本学のウェブサイトでは、どのくらいのアクセスがあったかなど分からないが、例えば、検索最大手のグーグル検索で、石川県 業界 という2語で検索をかけた場合でも、この「いしかわ業界マップ」に関する記事が3番目に表示された【図表4】(2020年2月25日実行)。

【図表4】石川県 業界 でグーグル検索画面



成果、結果の考察

冊子(2000部)に関しては好評のまま配布終了となった。しかし、そこで大学サイトなどによるインターネット公開により、さらなる広範囲への公開を実現することが重要であろう。

今後の課題、展望

【図表4】の検索結果上位の大学サイトの記事が前のもの(「いしかわ業界マップ2019」)であり、そちらにつないでも「いしかわ業界マップ2020」にはつながらなかった。資料公開に用いられる大学サイトのリンク調整などが必要になろう。大学が外部と直接「知」で交流しているのはこのような資料であることを認識し大学に大事に活用いただけたらと願っている。